



発行日：平成 28 年 1 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 29 回海部会 WG を開催しました！

12 月 25 日（金曜日）に第 29 回海部会WGが西尾市役所にて開催されました。今回の WG では、愛知県から干潟造成に関する話題提供や新しい取り組みの提案について意見交換を行いました。

日時：H27 年 12 月 25 日（金） 13:30～16:00
場所：西尾市役所 会議等 2F 第 4 会議室
参加者：16 名（事務局含む）



◆主な会議内容

1：本日の話し合いで決まったこと



■干潟・ヨシ再生

●今後、矢作川における河道掘削が断続的に予定されており、その土砂を干潟造成に活用する方向で事業調整すると良い。

■ごみマップの作成

●インターネットに公開されている『ごみマップ』作成ホームページを活用して、矢作川流域のごみの分布状況に関する情報を蓄積し、懇談会活動として情報管理、更新していく。

●過去に実施したごみ分布調査結果についても、この『ごみマップ』に情報登録して、閲覧できるようにすると良い。

●出水後に山、川、海の各部会が調査を行い、そのデータをマップ上に整理するなど、流域連携の手段として活用する。

■『砂の駅』構想について

●流域圏の土砂問題に関するPR効果手法として、イベントを企画することとする。

●ダム上流の砂をダムの下流まで運ぶなど実行可能性のある内容とする。

●次回の全体会議での話題として提供する。

■海の豊かな生物調査

●造成干潟における生物モニタリング調査については、4月上旬を目途に潮時をみて、調査に適した日を設定する。

●調査は懇談会メンバーが主体となって実施する。





●出席者による主な意見交換内容は、以下のとおりです。

(1) 干潟・ヨシ再生について

(・意見 ▶回答)

- 愛知県水産試験場 石田氏から「ダム堆積砂を利用した干潟・浅場の造成」として、以下の研究報告について、話題提供をいただいた。
 - 【干潟水槽実験結果】
 - ダム砂区と海砂区で生物量にはほとんど差がなかった。
 - ダム砂区と海砂区で、アサリ着底量にはほとんど差がなかった。
 - 【海域での干潟・浅場造成試験】
 - ダム堆積砂でのアサリ稚貝の発生が良く、アサリの生残も良い(＝漁獲サイズまで成長する)。また、底質が悪化しにくい。その理由は粒径の大きな砂、礫が稚貝の着底基質になることと、底質が悪化しにくくアサリの潜砂行動が容易となることである。また、透水性が高いことなどが推定される。
- ダムの砂がアサリの生息に良いというのはわかったが、粒径の大きい礫が多いことが良いということはないか？(平岩)
 - ▶ 大きな礫が良いという結論は得られていない。(石田)
 - ▶ アサリの浮遊期から着底するまでの間は粒径が関係することはないが、着底後から成長するまでの期間は、ダム堆積砂のように空隙の大きい砂が良いのではないか。このような結果をもとに、瀬戸内海でもアサリの生残率が悪くなった干潟に礫を投入したところ、冬に温かく、夏にやや涼しいという環境ができて、生物にとって良好な環境となった。特に、河口のように真水の浸透水がある環境では空隙が多いことが良い方向に働いている。締まった環境に礫径の大きい砂を客土すると良い方向に向かうことが多い。(鈴木)
 - ▶ 時々、ブルドーザーを使って海底を耕運しているが、赤潮や貧酸素水塊があるときなど、アサリが弱っているときに耕運するのはよくない。耕運自体は良いと思うが、時期が重要である。(石川)
 - ▶ 矢作ダムの砂は効果があることは分かっているから、課題はどうやって海まで持ってくるかがである。(青木)
- 今後矢作川で河道掘削が増えるという話は総合土砂管理による排砂が含まれたものか？(鈴木)
- 矢作ダムに排砂施設を整備して、洪水とともに排出する計画を検討中である。また河道掘削の土砂を干潟造成に活用するのはすでに作っており、現実的に可能な話である。(大森)

(2) ゴミ・流木問題

- 現在インターネット上で公開されている『ごみマップ』作成サイトを利用して今後矢作川のごみの分布状況に関する情報管理していきたい。(大森)
- ぜひお願いしたい。今後、出水後に山、川、海の各部会が一斉にごみ調査を行い、その結果をこのマップにまとめることは有益な情報であり、流域連携の成果にもなる。(青木)

(3) 『砂の駅』構想(仮称)について

- この話は海・山合同 WG の際に山部会メンバーからの発案されたものであり、事業としてやるには PR 効果、市民に関心を持ってもらうという趣旨で意義のあることであり、この話には大賛成である。(鈴木)
- すぐに実行できるのはイベントであろう。道の駅のように集客力のある施設が川沿いに一つ二つあって、そこに来た人が砂袋をもって次の駅に行けば安く買い物ができるというような見返りがあると嬉しい。(青木)

(4) 海と人との絆再生

- 造成干潟の現状として、前回見てもらった時よりもアサリが減っている。浅い方に砂がたまっており、アサリがそちらに移っている。実際に造成した箇所はガラガラの状態である。(石川)
- 4月上旬の潮時のよい日を調査日として設定するので、懇談会メンバーに連絡する。(大森)

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 大森、係長 桑、技官 宇野
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@ijinet.or.jp) までお送りください。